

“日本で最初の公許女性医師”
「荻野吟子」顕彰推進協議会
設立総会・第1回総会

日時 令和8年3月26日(木)
午前10時00分～
会場 熊谷市役所 6階603会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 協議会の設立について
 - (2) 規約(案)について
 - (3) 役員を選任について
 - (4) 事業計画(案)及び収支予算(案)について
- 4 その他
 - (1) 事務局から報告
 - (2) その他
- 5 閉 会



荻野吟子（おぎのぎんこ）
日本で最初の公許女性医師
1851～1913年

荻野吟子は、嘉永4年（1851）3月3日、現在の熊谷市俵瀬で名主役を務める荻野家の五女として生まれました。幼少より学問を好み、明治7年（1874）23歳のころ上京、翌年、東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）に1期生として入学、卒業後も医師を目指し医学校、好寿医院で学び続けます。当時、女性は医師への道が閉ざされていましたが、数々の困難を克服し、明治18年（1885）医術開業試験に合格、日本公許女性医師第1号として、現在の文京区本郷湯島で開業しました。34歳の時でした。

診療の傍ら、社会活動家としても女性の地位向上のため奔走しました。キリスト教の伝道師である志方之善（しかたゆきよし）と結婚後は、北海道へ渡り、インマヌエル（現在の瀬棚郡今金町神丘）の開拓に従事するほか、現在の久遠郡せたな町に医院を開業、婦人会や日曜学校の創設など、地域の文化、教育に尽力しました。

志方が亡くなったのち、明治41年（1908）帰京、現在の東京都墨田区向島で医院を開業します。この頃には女性医師の数も増え、日本女医会の活動に参画するなど、後進女性医師の活躍に関心を寄せていました。

大正2年（1913）6月、満62歳で逝去。墓所は豊島区の雑司ヶ谷霊園に建てられました。

明治の女性先覚者の生涯は渡辺淳一の小説「花埋み（はなうずみ）」などで広く世に紹介されています。昭和46年には「荻野吟子生誕之地」（熊谷市俵瀬580）が指定文化財史跡に指定され、平成18年5月に荻野吟子記念館がオープンしました。令和5年3月には、「荻野吟子」に焦点を当てた『熊谷市史調査報告書「荻野吟子-その歩みと出会い-」』が刊行されました。